

テーマ：地域活性化に貢献する行政職員の育成
方策～「元町カフェ」の実践事例報告～

所属：地域政策研究会

城古博史（兵庫県市町振興課）、大橋雅史（兵庫県農政環境部総務課）、溝口真吾（兵庫県立尼崎病院）、近藤直樹（兵庫県人事課）、高橋桐子（兵庫県自治研修所）、宇野真由美（兵庫県立芸術文化センター）、富士谷陽（兵庫県文書課）

研究概要

本研究では、行政職員や地域活動者等へのインタビュー調査を通して抽出したキーワードをもとに、一般的な行政職員が、地域活性化に貢献する職員へと成長し、地域に変化をもたらすプロセスを分析した。その結果、①外に出ること、②対話すること、③つながることが、多くの事例に共通する重要な要因であることがわかった。

これらの要因を多くの行政職員に提供する方策を提案するとともに、当研究会が「元町カフェ」という名称で実践してきた取組の成果を述べ、その検証結果を踏まえた今後の展開方策を示す。

1 研究の目的

人口や経済が縮小局面を迎える中、地方分権が進み、地域独自の活性化に取り組む地域とそうでない地域との明暗が、かつてより顕著になっている。地域の活性化においては、住民や各種団体等のリーダーが中心的な役割を果たすが、地域リーダーとの協働や支援等、行政職員の役割も大きい。

この行政職員の役割として、担当事務的確な処理を通して地域の活性化に寄与することは当然のことながら、それに加えて、従来の業務を粛々とこなすだけでは創出できない新しい価値や変化を地域にもたらすことが重要である（本研究で述べる「地域活性化」は、後者を指す）。

本研究では、このような行政職員が育つ過程を明らかにするとともに、そのための具体的な方策を提示することによって、地域活性化に貢献する行政職員がより多く生まれる組織づくりに寄与することを目的とする。

2 方法

本研究では、定量的なデータでは測れない暗黙知に焦点を当てるため、地域活性化の関係者 26 名（図表 1）にインタビューをおこない、定性的な分析を行った。

図表 1 インタビュー対象者（所属・役職はインタビュー当時）

対象者	活動内容等
1 森本 健次氏 京都府南山城村魅力ある村づくりプロジェクトリーダー	人口減少地域におけるむらづくり
2 三宅 隆之氏 兵庫県財政課主査	国・県の財政事情と行財政構造改革
3 西村 いつき氏 兵庫県農業改良課環境創造型農業専門員	コウホリ育む農法
4 小倉 謙氏 NPO 法人しゃらく代表理事	NPO 法人しゃらくの活動（介護付旅行等）
5 藤島 一篤氏 NPO 法人ワーク・ライフ・コンサルタン代表理事	ワーク・ライフ・バランスの推進
6 小川 雅由氏 NPO 法人子ども環境活動支援協会事務局長	環境学習
7 浅見 雅之氏 合同会社人・まち・住まい研究所代表	小規模集落の活性化
8 京都府南山城村高尾地区の住民	高尾地区の現状とこれから（フィールドワーク）
9 加留部 貴行氏 九州大学大学院客員准教授	共働、変革事例（北九州市の B 級グルメ等）
10 西 修氏 神戸市長田区まちづくり課長	ワークショップ、まちづくり
11 西野 将俊氏 前兵庫県議会議員	議員活動について
12 衣笠 愛之氏 農業生産法人夢前夢工房代表取締役社長	農業、特産品化等による地域の活性化
13 山中 俊之氏 関西学院大学経営戦略研究科教授	グローバル時代における公共人材育成
14 白井 文氏 前尼崎市長	尼崎市の改革、白井氏のライフストーリー
15 吉田 淳史氏 尼崎市都市魅力創造発信課長	尼崎市の業務改善運動
16 立石 孝裕氏 尼崎市学校計画担当課長	
17 加藤 徹生氏 社団法人 wia 代表	社会的起業
18 中塚 則男氏 関西広域連合事務局長	関西広域連合とこれからの地方行政
19 大西 茂氏 佐用町金子集落区長	佐用町金子集落等の活性化の取組（フィールドワーク）
20 福井 正春氏 地域おこし協力隊	
21 綱本 武雄 22 若狭 健作 尼崎南部再生研究室	尼崎の南部再生
23 加藤 美浩 札幌市	もったかんたんまちづくり
24 木村 俊昭氏 地域活性化伝道師(国)	できないをできるに変える地域活性化
25 樋渡 啓祐氏 佐賀県武雄市長	武雄市の改革、樋渡氏のライフストーリー
26 豊重 哲郎氏 鹿屋市串良町柳谷公民館館長	やねだん集落の行政に頼らない活性化

インタビューでは、「なぜ地域活性化に取り組もうと考えたのか」という対象者の内的な変化から、実際に活性化の取り組んだプロセスまでを聴取し、そこからキーワードを抽出した。そのキーワード群の中から、多くの事例に共通するものや一定の法則性を見出し、地域活性化のプロセスをモデル化した。